

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	静岡県静岡市清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	平成22年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai-gosi-p/top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11-43-6
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症になっても住み慣れた町で最期まで人として全うしたい」ご家族や、ご本人の希望があれば、最期までの看取りを行っております。開所後5年目 利用者様の18人中8人が、開所当所から此処で安楽に安全に暮らしています。高齢化が進みケア量が増え重視される中で日中は、オムツに頼らず個々の排泄パターンに合わせてトイレでの排泄を行っています。口腔ケアに関しても毎食後個々の口腔内の状況に合わせたケアが行われています。元気な方は、ホーム前のスーパーや薬屋さんに買い物に出かけたりラーメン屋へ外食に出かけている。町内会のお祭りやS型デイサービスに参加したり近隣のお米屋、お魚屋から食材を購入し地域のお年寄りや住民と慣れ親しんだ関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清水インターからさほど遠くない、西久保地区に位置する、当施設は5年目を迎えます。地域密着型サービス事業所として、利用者や家族から厚い信頼が有り、地域住民とも親密な関係が築かれている事が、実施評価や、家族アンケートから確認できました。施設は平屋建て2ユニット(18人)で、安全性が高く、広く明るい環境です。日々その人らしく、自然な姿で生活している様子が垣間見られます。当施設では職員教育に熱心で、また同業事業所職員の体験実習や他県事業所からの研修受け入れなど、その信頼性が推察出来ます。運営推進会議も頻繁に開催され、職員間の人間関係も良好で、常に介護のプロを目指す姿勢が有りました。今後益々高齢化が進む地域社会において、その活躍と存在が大きくなる事が、期待されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても住み慣れた町で最期まで人として暮らせるように支援していく。看取りを行なっているので年々重度化している為ケア量が増えている。	住み慣れた地域で、人としての尊厳を守り生活していただく為に管理者・職員が理念を共有しケアに取り組んで居る事が、諸資料から理解できました。結果として職員各位の利用者に対する個別ケアの動作や、声掛け等を通じて知る事も出来ます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動や地域のお祭り・エス型デイサービスに参加し地域に溶け込んでいる。	自治会から割り当てられる班長等の役職も積極的に受け入れ地域に溶け込んだ存在になっています。近隣との声掛けは日常生活の中で自然に行われ、地域での諸行事等にはお誘いも有ります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度から地域住民・地域包括支援センターとともに認知症サポーター養成講座のお手伝いをさせていただいている。認知症への理解、対処法について実践から得た話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、防災面について防災訓練への参加や地域消防署防災担当者に防災講話をしていただき施設火災の現状をお話いただいた。ホーム内での救助活動への限界と地域へのご協力を参加された方の意見も取り入れながらお願いした。	会議は頻繁に実施されています。最近では出席者からの要望も採り入れて防災講話会や服薬講座をも議題の中に組み込まれ、内容の充実にも努めて居ました。提案された内容は事業所運営の過程で活用され、サービスの向上に役立てていました。	会議へ多くのお家族に出席していただく事は、難しい問題と思いますが、さらなる増加策をお検討願います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市当局からは実地指導や集団指導時に又、介護相談員が、毎月来所され職員のサービスの取り組みに対してご助言やご指導をいただくときもある。	日頃の連絡は、メールや電話で行われています。地域密着型サービスとして市からの実施指導は先日終了し適切な助言等を受けているようですし、介護相談員制度の導入も為されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間のみ防犯目的で施錠されている。日中は、鍵がかかっているないので人の出入り時にセンサー音で職員が、来訪者、利用者様の出入りを確認している。夜間は、ベッドからの立ち上がりか懸念される場合は、椅子を手すりの代用としてベッド横に設置している。	身体拘束はしない事の意義をスタッフ全員が理解・共有し業務を遂行していました。居室内でも、安全性を考慮した上での工夫を凝らした整理・整頓が為されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じ話の繰り返し、大声で要求を繰り返す、介護を受ける際に奇声を挙げる利用者様に対する対応については、個々、限界を超えるところがある。認知症への対応について職員の年齢、個人の性格、生活層も大きく影響している。利用者様への対応、発言については、管理者から注意しているが、認知症研修を更に充実させたいところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、今年に入り1人家裁に申し立てた家族があり職員に説明する機会があった。権利擁護に関しては、受けている利用者様がいらして入所期間も長いので職員に周知されてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ホームの方針、家族の希望、ホームへの理解については、十分に話し同意していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時やご家族が来所されたおりに最近の様子を職員や管理者が話したり毎月介護記録のコピーを送りご要望やご意見を何時でも言うてくださるようお願いしている。	利用者・家族等の意見は、担当者会議や家族の来訪時等、機会ある事に管理者や職員に届いています。日々の介護記録はそのコピーが家族に送付されていて、相互の意見の疎通は、家族アンケートからも確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当日急に意見を求められても即答できないという職員の話を受けてミーティング、担当者会議前に議事録を配布し意見が言えるよう事前準備をするようにした。意見が以前よりは、出るようになったが、充分とはいえない。	担当者会議前には、事前に収集した課題等を、提示して意見が言い易く、出やすい工夫をしていました。経験豊富な職員からは、介護方法の提案があったり、入れ歯ケースの消毒法などの提案もあり、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況の把握を充分に行い給与・昇給・ボーナス査定に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、職員に今年目標と希望する研修を受けさせている。殆どの職員が、出張という形で研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員が、コミュニケーション研修ということで来所されている。他県の同業者が、新規開業ということでホームでの研修を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの訴えを待つだけでなく声掛けを積極的に行い本人の要求をミーティング等で全職員に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の訴えや要望を家族に伝えることで本人との摩擦を解消できる調整役になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所をきめる「何が、介護の限界になったのか」を見極めて専門職として利用者様、ご家族様の安心につながるサービスから導入させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度、掃除、洗濯たたみ等の家事作業でできることは、一緒にやっていたい。又、会話の出来ない利用者様の手を握ったりすることでスキンシップをとり意思疎通を図れるように努め家庭的な雰囲気の中で暮らしを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が、面会に来られると利用者様を愛情深く見つめる姿を拝見し大切な方をお預かりしていると実感している。家族同行の遠足、家族会の開催を通じ家族とのコミュニケーションを深めている。日々の暮らしや体調変化時の報告を密にして家族の不安を無くし双方納得のいく支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様との会話の中から少しずつ聞き出したリ時々、思い出したりしていただけるようなコミュニケーションに努めている。又、本人の希望があれば出来る範囲内で協力していきたい。	家族会議や日頃のケアの中から利用者の好みや、馴染みは把握せれて友人や親せきの来所者が多く、馴染みの店などには良く外食に行くそうです。重度化が進み、手紙書きの手助けや、電話の取り次ぎは、少ないくなって来ました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間等になるべく共通の話題を提供している。楽しく過ごせるようにし孤立する利用者様が、いないようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後、退所したご家族が、年忌の報告に来所されたり、お盆に、ご遺族がご挨拶にみえられたご家族もいらっしゃる。現在篤志家で浜松医大に献体されている元利用者様が、自宅に戻られる時は、ホームでご自宅に伺いたい旨をお伝えしてある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりの生活習慣、身体機能を把握し利用者の意向に沿ったその人らしい暮らしが続けて行ける様努めている。表現が十分に伝えられない利用者についても表情や動作から把握し職員間で共有している。	重度化が進むにつれ、強い意向や想いは、減少しているようです。それでも中には、刺し子の作品を作ったり、経理の経験のある方は、公文式の数字合わせをしたりと、その人の状態と可能性に合わせた対応が、配慮されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の相談時や家族が来所された折などに情報を頂き職員に流している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の心身の状態で担当者会議で一日の過ごし方を決めさせていただいているが、日によって状態もまちまちなので柔軟に対応している。意思決定力が残存されている利用者は、マイペースを基本に過ごされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月、2回の担当者会議で見直しを検討している。場合によっては、ご家族に報告、了解を得ることもある。会議以外でも状況、状態により管理者、職員との話し合いで対応を変更することがあるが、あくまで暫定であって定期的な会議で再検討している。	介護計画は、左記の自己実践状況の通り、ケアの在り方について、その人に合った介護計画が作られています。理念遂行の為に、検討されたアイデアや、現状に合った介護方法は、きめ細かく記載されて、計画に活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルの日誌に様子を記入の他、業務日誌で利用者様の変化、対応の申し送りを、活字に落とし職員全員の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様の体調により家族の意向に沿って病院受診の手助けをしている。・利用者様の希望でいける範囲内での買い物に同行をしている。・ご家族の意向も重視し利用者様の状態により暫定的にプランを変更し担当者会議にかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣組との連携や地域S型デイサービスの利用、地域の商店を利用することで地域に浸透した関係づくりに勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が信頼できるかかりつけ医、症状にあわせた病院への受診支援を行っており又、その病院と事業所との連携も取れている。	家族アンケートの中には感謝の言葉が多く、管理者が看護師の為、日常の健康状態が適確に把握され、お家族にも安心感があるようです。殆どどの利用者は協力医でもある掛かりつけ医の往診による診療を受け、施設としては24時間の緊急対応も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中でとらえた身体的、精神的変化について適宜看護師である管理者に報告している。管理者は、かかりつけ医との連携により適切な受診や看護が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は、特定疾患を持つ利用者様が、急に状態が悪くなり入院し病院との情報交換や相談に向けて病院側に交渉したが、事務的な対応に尽きて病院側の対応の悪さに疑問が多く残った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の相談は、時間を掛けて行うようにしている。又終身でお預かりする方針であることを伝え最期をどうしたいか家族に意向を伺っておく。	過去には看取りの経験もあり、終末期に向けての対応は、常に勉強を重ねて備えています。入所時には、家族や本人に十分な説明がなされています。自然な形で重度化が進む中、事前にその兆候が有れば、家族や協力医と相談の上、対処しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年に入り新人も含めて救急法を地元管轄の消防署で受けている。緊急時のホームでの対応についてもマニュアルを見直しミーティングで職員周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年2回は行なうようにしている。1回は、隣組住民に訓練を見学していただいている。2回目は、11月に行う予定で消防署立会いをお願いしている。	昨年8月の地震の経験を踏まえて、防災意識は強く、管理者、職員共に対処と課題が共有しています。防災訓練は毎年2回は行われており、地域を巻き込んだ訓練をして、地域との協定を今後の課題としています。	災害対策は、これで良しと言う事は有りません。夜間対応や、津波対策・備蓄品の充実等、きめ細かい諸施策を期待致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上目線、命令・指示口調言動に注意を払っている。トイレ使用中のドアの開放、大声でのトイレ誘導、トイレへの訪室への声掛けに注意している。	利用者の自尊心を重んじ、その人のプライバシーを守る上から特に声かけには、心配りが感じられました。トイレ誘導など、命令口調は無く、間接的な表現で、利用者のプライドが守られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様によっては、担当スタッフを決めたり選択肢のあることは、個々に意思の確認をするよう日常のふれあいの中で心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は、個々に対応し日中は、居室で休むなどの対応をしている。希望を聞ける利用者様には、反映するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えでは、季節や当日の寒暖の差、組合せ等を考慮し着るものを支援している。散髪は、2ヶ月に1度出張床屋さんへ散髪をお願いし全員散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と野菜の皮むき、カット、食事の盛り付け食器洗いや食器拭きなどを職員と一緒にに行っています。	季節感を出した食事メニューや、個人対応のトロミ食など、楽しい食卓の工夫がなされていました。重度化が進む中、食事支援のきめ細かい心配りも確認できました。食後に出るデザートも楽しみの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、1日1000から1500ミリリットルを目安に水分、栄養面を検討。拒食のみられる利用者様へは、ウイダーインゼリーでの補食、飲み込みが心配される利用者様には、ポカリゼリーを作って補飲している。食事は、個々の動き、希望する量、食べられる形態で刻み、ミキサー、トロミ等の工夫をして全量摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修に今年は、6名の職員が参加し理論・実践も学び必要性は、認識している。個々の口腔内の状態で口腔ケアガーゼの使用、歯間ブラシ、口が開かない利用者様には、バイトプロテクションを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレの誘導時間を決めて尿意・便意の訴えがなくても誘導している。個々の排泄パターンを把握し利用者にあつた誘導も取り入れている。	排泄パターンを把握した上で、定時誘導や、その人に合った誘導がなされ、排泄習慣が付く様に対応しています。。便器に座る習慣で、自立排泄習慣が付き、リハパンが外れたケースも有った様です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により体調管理しており個々の排泄を確認し下剤内服の処置がされている。食事面では、野菜中心で繊維を多く摂取して食品を選んでいる。運動量の少ない人には、短い距離でも体を動かす声掛けを行なっている。水分量もおやつ、入浴後とこまめに行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴日は、決まっているが、毎日入浴を希望される利用者様、家族の希望も取り入れている。重度な利用者様は、2人対応で入浴し日中3:00頃を目安に職員数の多い時間帯に入浴を行うことで入浴時の利用者様の急変対応に備えている。	週、最低でも三回の入浴を勤めています。中には嫌いな人もいて、工夫した声かけで入浴が好きになったケースも有ったようです。みかん湯など楽しい入浴が出来るように工夫しています。失禁時などは適宜対応していました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の休みたい時間に応じている。車椅子乗車の長い人や自力座位が厳しい利用者様は、安楽になれる時間を考慮しベッドで休む時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師である管理者が行い定期的に薬学講座を県の薬剤師に開催してもらい薬への理解を深めていく努力をしている。介護者は、個々の利用者様の病気、内服している薬の作用・副作用について理解する努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	車椅子に乗車していても手仕事ができる利用者は、食器拭きを自分の仕事として几帳面に綺麗に拭いてくださる。利用者様によっては、日頃は、少食でも好物なメニューが出るときは、盛を多くし食事を楽しんでいただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される利用者様は、少なく職員からの働きかけで外食、買い物、散歩などに出かけている。季節の行事や祭りへの参加も行っている。家族との外出、外泊も気軽に出れるよう支援している。	散歩は毎日原則としています。中庭を使った日光浴や、買物外出や外食など、なるべく戸外へ出る機会を多くする様にしています。10月25日には、島田のバラ園に遠足に行ってきました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者様は、お金を所持していない。今年入所された認知度の低い利用者様が日常生活品を購入したい希望があり所持している。買い物希望があるときは、同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	該当する利用者様が居ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には、芝、やまぼうしと言う落葉樹が植えられ季節を感じられるようになっていく。台所は、対面式で目配りが出来るような構造になっている。浴室は、浴、脱衣室共に暖房完備、トイレも明るく手摺りも充実している。フローア、一部居室に天窓があり採光、風通しを良くしている。	平屋建ての2ユニットは明るく広く、贅沢な空間を演出しています。中庭のやまぼうしの木は季節により紅葉や、若葉が楽しめ、風の音と共に季節感を感じます。台所は対面式で、利用者の様子が確認でき、安全面でも安心設計です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニットが平屋構造で利用者様が、自由に行き来できる。居室とは、別のユニットで日中過ごしている利用者様もいる。又、気のあった者どおしが、話せるような環境づくりをしている。ソファの設置もあり1人でくつろぐことが出来るスペースが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、使い慣れた家具等を自由に持ち込んでいただいている。但し利用者様の中には、重たい家具を移動したり引き出しの中に排泄物を入れてしまうため本人が持ち運びしやすい軽量の家具や家具を移動するため不必要なものまで置かないようにしている。	居室は、ジュウタン敷きや和室で、持ち込んだテレビや仏壇など、各人の馴染みの家具で満たされています。安全面の配慮から、不必要な物や、転倒し易い物の排除など、気を配った居室状況です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの手摺りは、車椅子～便座への移乗を自立できる位置に設置されている。トイレや居室の入り口に表札を置いて場所がわからなくなっても活字を追いながら場所を探せるようにしてある。		